

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- ① 国語 126人
- ② 数学 126人
- ③ 英語 125人

5 留意事項

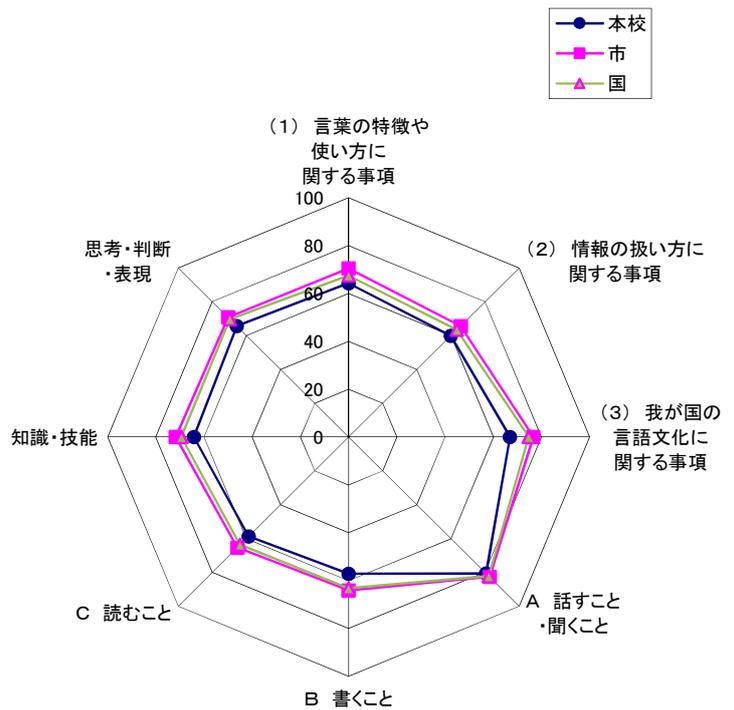
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.3	70.5	67.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	59.9	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.9	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	80.7	82.6	82.2
	B 書くこと	57.1	64.1	63.2
	C 読むこと	58.7	65.3	63.7
観点	知識・技能	64.2	71.7	69.4
	思考・判断・表現	65.7	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

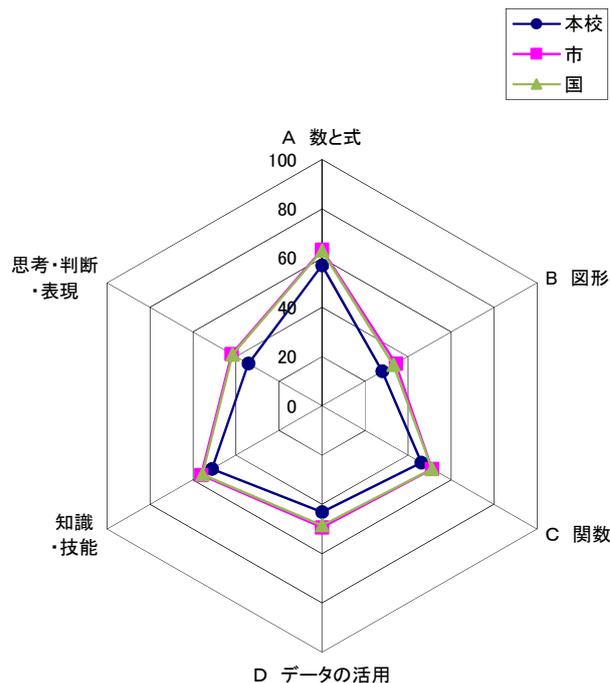
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	●市、国と比較して6.2～3.2ポイント低い。「落胆する」の意味について「恥ずかしがる」と解答した割合が市より3.6ポイント多いこと、「推す」という漢字を誤答または無解答とした割合が市より2.3ポイント多いことがわかった。	・語彙の少なさ、漢字を書くことへの抵抗は日頃から見られるので、現在取り組んでいる朝の読書の継続指導と、漢字を正しく理解・使う場面を授業等で積極的に実施する。
(2) 情報の扱い方に関する事項	●市、国と比較して5.8～3.5ポイント低い。「意見」「根拠」「情報」の判断が弱いこと、二つ以上の条件について一つにしか反応できていないことなどが理由として挙げられる。	・説明文や論説文を扱う際、「意見」「根拠」「情報」などの役割を明確にする学習を積極的に取り入れる。また選択する条件が二つ以上ある設問にも適宜取り組ませる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●市、国と比較して9.7～7.8ポイント低い。これは全領域の中で最も開きが大きい。古典の基礎知識で誤答する傾向も見られたが「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりする」について、条件を見落としたり見誤ったりしている解答が多く見られた。	・古典の基礎知識については授業等で何度も触れていくことにする。また「自分の知識や経験と結びつけ、いくつかの条件を踏まえた上で自分の考えを書く」という課題についても適宜取り入れていくことにする。
A 話すこと・聞くこと	○全体の中で平均正答率が80%を超えているのは、この項目だけだった。特に「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができる」については国、市と比較すると0.4ポイント以上正答率が高かった。 ●とはいえ市、国と比較して1.9～1.5ポイント低い。	・定期的実施している聞き取り課題を今後も継続し、正確に聞き取る力の育成に努めたい。「聞き取ったことを基に、自分の考えをまとめる」という力が弱いので、このような課題も取り入れていく。
B 書くこと	●市、国と比較して7.0～6.1ポイント低い。特に「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる」について国、市と比較して5.7ポイントも低かった。また生徒質問紙でも消極的な回答が県・市よりも5ポイントほど上回った。本校生徒は記述解答の部分に対して最初から消極的な生徒が多く、各学級5人程度は全く書かない状態であった。	・まとまりのある文章を書くことを厭う生徒が見受けられるので、まずは書くことへの抵抗を減らすよう簡単な課題から取り組ませる。 ・振り返りなどは、クロームブックの利用だけでなく、実際に手で書く活動も取り入れる。
C 読むこと	●市、国と比較して6.6～5.0ポイント低い。生徒質問紙の「文学的文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえているか」の問いに対しては「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒が3割弱と県・市よりも高い。特に「文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えること」について、全ての条件を満たさず解答している割合が大きかった。文章を読み取り、いくつか組み合わせる力が弱い。	・一条件に対して一つの解答というパターンに慣れてしまっているため、今回の問題のように、読み取った事柄を組み合わせた上で自分の考えを書くという課題を適宜授業で取り入れていく。

宇都宮市立国本中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	57.0	63.4	63.0
	B 図形	28.0	34.3	33.2
	C 関数	46.2	51.2	51.2
	D データの活用	43.1	49.4	48.5
観点	知識・技能	51.2	56.2	55.7
	思考・判断・表現	34.3	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

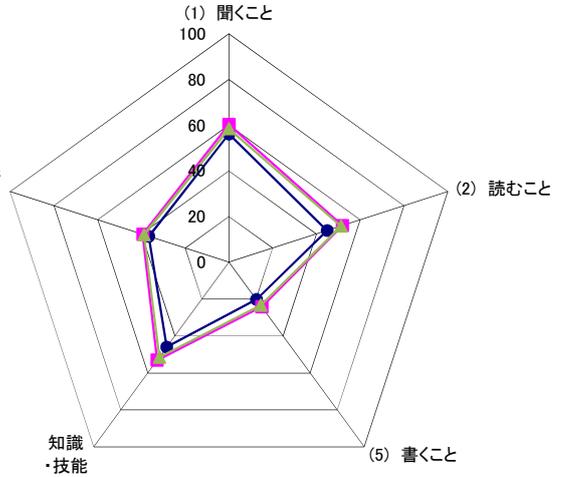
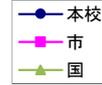
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率は、市・国の平均よりも低い。</p> <p>●市や国の正答率を6%ほど下回っているものが多い。特に、説明を必要とする問題や、計算の意味を理解していないと解けない問題について、難しいと感じている生徒が多い。</p>	<p>・簡単な計算など、既習事項の確認をする時間を多く取り入れていく。</p> <p>・新たに学習する内容に関しては、繰り返し問題練習を行う中で、基本的な問題の解き方を身に付けられるよう心掛けることで、難易度の高い問題を解決する糸口になるようにする。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、市・国の平均よりも低い。</p> <p>○反例を見つける問題では、他の問題に比べて市の正答率に近かった。昨年度に図形の学習した際に、図形の性質の確認を繰り返し実施したことで、性質を理解・定着につながり、正答率が高くなったと考えられる。</p> <p>●証明の問題では、市・国の正答率を8%ほど下回っている。証明を書くことが難しいと感じている生徒が多い。</p>	<p>・授業の中で既習事項を確認する時間を設けて、様々な図形の性質や条件などを繰り返し復習し、定着させる。</p> <p>・文章の中の必要な情報に下線を引かせるなど、文章の意味を読み取る力をつけさせる指導を心掛ける。</p>
C 関数	<p>平均正答率は、市・国の平均よりも低い。</p> <p>○反比例の問題では、他の問題に比べて市の正答率を上回った。比例・反比例の意味を理解できている生徒が多いと考えられる。</p> <p>●グラフや式を活用する問題では市や国の正答率より6%ほど下回っている。与えられた表やグラフから適切な情報を読み取ることはできるが、それを表現や説明するのに正しく活用できていない生徒が多いと考えられる。</p>	<p>・関数の式の形、変化の割合の求め方など、グラフや表から情報を読み取り、それを活用して答えを求める問題に多く取り組ませる。</p> <p>・文章の内容から、比例や反比例の性質を読み取り、式の形で表せるように、文章からキーワードや必要な数量を見つけさせる指導を心掛ける。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、市・国の平均よりも低い。</p> <p>●複数の集団のデータの分布の傾向を比較する問題は、市や国の正答率より6%ほど下回っている。判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができない生徒が多いと考えられる。</p>	<p>・平均値、中央値、最頻値や、相対度数の求め方などを復習する時間を設ける。</p> <p>・箱ひげ図の有用性を理解させたくうえで、課題解決学習を行い、箱ひげ図の使い方を復習する。</p>

宇都宮市立国本中学校第3学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	56.1	60.2	58.4
	(2) 読むこと	44.8	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	20.2	24.2	23.4
観点	知識・技能	46.0	53.1	51.5
	思考・判断・表現	36.6	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	<p>平均正答率は、市・県の平均よりやや低い。 ○全6問のうち、4問が県の平均以上の正答率であった。目的や状況から判断して、必要な情報を聞き取る思考力・判断力・表現力を問う問題では、3問中2問が県の平均を上回った。生徒質問紙の「1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて全体の概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」という質問に対する肯定的回答が県・全国を上回っていることから、授業の中で、目的・場面・状況を意識させながら言語活動を行ってきた成果であると考えられる。 ●道案内の場面における会話の情報を聞き取る問題では、県の平均を4.5ポイント下回り、聞くことの問題の中で最も差が大きかった。道案内に関する語彙自体は理解できる生徒が多いが、聞いた英文から状況をイメージすることに課題があると考えられる。</p>	<p>・今後も英単語や単文の意味を捉える活動に留まらず、英語を使用する目的・場面・状況を意識させながら、リスニングやスピーキングなどの言語活動を設定し、取り組ませていく。 ・聞いた英文から状況をイメージする力の育成していくために、まとまった量のリスニングを通して、話の内容の概要を捉えさせたり、段落ごとに要点を捉えさせたりする練習を一層充実させていく。</p>
(2) 読むこと	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○全6問のうち、2問が県の平均以上の正答率であった。言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことや、短い文章の概要や要点を捉えることは比較的よくできている。生徒質問紙の「1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで全体の概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」という質問に対する肯定的回答が県・全国を上回っていることから、授業の中で、目的・場面・状況を意識させながら言語活動を行ってきたことで、品詞と語順についての理解が深まってきた成果であると考えられる。 ●文と文との関係を正確に読み取り、適切なつなぎことばを選択する問題では、県の平均正答率を大きく下回った。1文1文を理解させるだけでなく、段落構成等を意識させたりリーディングの指導が必要である。</p>	<p>・品詞と語順についての理解を一層深めていけるよう、読むことに限らず、聞くこと、書くこと、などの領域の指導においても、継続して意識させながら学習に取り組ませていく。 ・文章の段落構成や、例示が続く場合の表現など、1文1文ではなく、全体としての話の流れを掴ませる活動を設定し、継続して取り組ませていく必要がある。聞くことの領域でも述べた通り、まとまった量の英文に触れる機会を授業の中で一層設定していく。</p>
(3) 書くこと	<p>平均正答率は、市・県の平均よりやや低い。 ○全5問のうち、3問が県の平均以上の正答率であった。生徒質問紙の「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」という質問に対して、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか」という質問に対する肯定的回答がいずれも県・全国を上回っていることから、授業を通して基本的な語形・語法・語彙とともに、品詞や語順についての理解が深まってきた成果であると考えられる。 ●全体的に無解答率が県の平均よりも高い。特に、自分の考えや事実を整理し、まとまりのある文章(25語以上)を書く問題では、正答率が1.6%とごく一部の生徒しか正答できておらず、同問題の無解答率は県の平均を8.9ポイント上回る29.6%。解答しているものの25語未満となった生徒は27.2%であった。生徒質問紙の「解答時間は十分でしたか(英語)」で、肯定的回答の割合が県・全国よりいずれも10%以上も低いことから、問題慣れさせることも課題である。</p>	<p>・話すこと、聞くこと、書くことの領域をまたがり、聞いたことに対して自分の意見を書いたり、自分が話したことについてまとめて書き表したりする言語活動を今後も継続し、その中で語形・語法・語彙の指導に加えて品詞と語順についても指導していく。 ・書くことの領域において無解答率が高いという特徴は、前年度のどちぎっ子学習状況調査においても見られていたため、繰り返し取り組ませてきていた。自分の考えを表す表現と、事実を書き表す表現など、基本的な語彙・語法を確実に身につけていけるよう、単文からまとまった量へと、段階的に書かせる言語活動に継続的に取り組ませていく。 ・解答時間の不足への対策として、今後問題演習時に目標時間を例示したり、解答に要した時間を記録させたりしながら取り組ませていく。</p>

宇都宮市立国本中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定解答の割合は88.8ポイント※全国(87.3)・県(90.5)で、全国よりも上回った。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定解答の割合は72.2ポイント※全国(66.4)・県(69.0)で、全国や県を上回った。本校生徒は先生や周りの大人と信頼関係を築けていることがわかる。

○「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対する回答から、「ほぼ毎日」「週3回以上」使っている割合は81.0ポイント※全国(61.1)・県(55.1)で、全国や県よりも大きく上回った。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対する肯定的回答は95.2ポイント※全国(93.3)・県(93.8)で、全国や県を上回った。多くの教員がクロームブックを活用して授業を行っており、生徒もその効果を実感していることがわかる。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」に対する肯定的回答の割合は80.9ポイント※全国(77.9)・県(83.7)で、全国よりも上回った。また、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」に対する肯定的回答は73.8ポイント※全国(71.6)・県(77.5)で、全国よりも上回った。学級活動で話し合ったことが生徒の取り組み方に反映されていることがわかる。

●「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」に対する肯定解答の割合は69.9ポイント※全国(78.0)・県(80.0)で、全国や県より大きく下回った。就寝時間を決めていない生活を送る生徒が多いことが分かる。学年通信や保護者会で家庭での時間の使い方について資料を提示していきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する肯定解答の割合は51.6ポイント※全国(55.0)・県(62.1)で、全国や県を大きく下回った。また、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対する「全くしない」回答は10.3ポイント※全国(6.0)・県(3.9)で、全国や県を大きく上回った。同じ質問で「土曜日や日曜日」の「全くしない」回答は21.4ポイント※全国(12.54)・県(7.5)で、全国と県を大きく上回った。他方で「3時間以上やる」生徒は県や全国と比較して変わらない。本校では家庭学習を「全くやらない」生徒が比較的多数いることから、対象生徒への個別対応を強化していきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定的回答は24.6ポイント※全国(38.0)・県(38.6)で、全国や県を大きく下回った。コロナ禍で地域の行事が削減されていた影響だと考えられる。

●「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問にたいする肯定的回答の割合は50.0ポイント※全国(62.1)・県(64.0)で、全国や県を大きく下回っている。各教科の授業の中で、学んで理解したことを基に考えを整理してまとめたり、発表する授業を増やしていきたい。

●「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に対する肯定的回答の割合は79.4ポイント※全国(86.3)・県(89.2)で、全国や県を下回った。道徳の授業で話し合い活動を増やすとともに、自分の意見を発言しやすい学級の雰囲気づくりに努めていきたい。

宇都宮市立国本中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業改善を通じた授業力の向上	生徒にとって「分かる授業」を展開するために、宇都宮モデルに基づき、めあての明示やペアワーク、グループワークなどの学習形態の工夫、授業の終末での学習内容の振り返りを全教科で実践している。	各教科の「授業の内容はよくわかりますか」の質問の肯定的回答の割合は、国語85.7、英語73.0ポイントで県や全国の平均より大きく上回った。数学66.6ポイントは県と全国の平均を下回った。また、ICT機器の活用に関する質問項目の肯定的回答は、県、全国を大きく上回った。今後も各教科で有効にICT機器を活用し、生徒にとってより分かりやすい説明、取り組みやすい課題設定を継続したい。
・生徒の学びの自己調整能力の育成	定期テスト前の2週間、「家庭学習がんばりの記録」を利用し、家庭学習の時間を記入されることで、生徒自身の学習への取組状況を可視化し、個に応じて指導助言を行っている。 各教科の学習を振り返り、理解できた点や、よく分からなかった点を整理し、次の学習につなげられるよう、各教科振り返りシート等を活用する。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問では、否定的回答が35.7ポイントで、県27.0ポイント、全国30.1ポイントを上回った。また、各教科の記述問題への取組に関する質問で、「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合は、いずれも県、全国の平均を下回った。学んだ知識を自分の言葉でまとめさせるなど、振り返りを充実させ、諦めずに取り組む態度の育成を図りたい。
・家庭学習における学習内容の復習の習慣化に向けた指導の工夫	全学年で家庭学習の習慣化に向けた取組を行っている。また、復習するポイントを生徒が整理しやすいよう、各授業で、その日の学習内容の振り返りを行っている。	土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強する時間は、県、全国の平均と比較しておおよそ同程度である。「3時間以上」と回答した割合は全国を上回った。平日は「3時間以上」と回答した割合でやや県を上回ったが、「全くしない」と回答した割合は土日で21.4ポイント、平日で10.3ポイントと、全国・県を大きく超える状況であることから、前年度のとちぎっ子で見られた家庭学習への取組の習慣化という課題はまだ残る結果となった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の2つの質問への回答状況から、自分の考えをまとめて分かりやすく言語化することに課題があると考えられる。	・思考力・判断力・表現力を育成する教科指導の充実 (生徒の学びの自己調整能力の育成を通して)	各教科の単元計画の中で、学習内容を振り返らせ、学んだことを自分の言葉で説明させたり、次の学習への取り組み方を考えさせたりする時間を設定する。自らの理解度を確認させるとともに、身につけたことを分かりやすくまとめさせる指導を行う。